

長島文芸

明神俳句会

松過ぎて大つぴらに干す女物
 初日記未知の白さを恐れたり
 鶏にわとりに声かけてくる初句会
 松過ぎや娶めとると話の有耶無耶に
 一年を心あらたに初句会
 松過ぎて境内静かに暮れにけり
 閉じてゆく天使の梯子雪降り

二階堂妙子
 淵脇 護
 大堂 早苗
 筑前 初市
 山寄加代子
 関 佳代美
 迫口 君代

長島短歌会

婚終へし孫が我が肩抱き寄する子等になかりしこの優しさは
 厳しくも変革掲げ若鷺の羽ばたきを見むバラク・オバマよ
 時より海渡り来し幾千羽鶴舞ひあがる日に輝きて

浜畑 松枝
 林 ヒロ
 本田 幸子

町立図書館おすすめBOOK

新刊紹介

図書館に置いてある最新本の中からおすすめのものピックアップ。バラエティーに富んだ新刊を紹介します。

町立指江図書館 / 電話 0996-88-6500



新装版 天地人(上・中・下)
 火坂 雅志 著

上杉謙信の義の心を受け継いだ直江兼続の苦闘と栄光の生涯。ドラマもいいですが、原作を読んでみるのも楽しいかもしれません。

町立鷹巣図書館 / 電話 0996-86-1111



めでたしめでたしからはじまる絵本
 デイヴィッド・ラロシエル 文

昔ばなしといえば「むかしむかし、あるところに…」ではじまるものと思いませんか？この本はちがいます。「めでたしめでたし」からはじまっているんです。ページをめくるたびに意外な展開に。「めでたしめでたし」からはじまる昔ばなし、終わりはどうなるのでしょうか。

一般作品

激寒の海に漁する夫婦船音のみ残し朝靄あさぎりに出づ
 浜田美代子

俳句

財はつは無く一病も無く梅日和
 仄ひそ灰と童らの莫も崖がきにも椿かな
 夜学よがくの灯あかり洩れて積雪高くあり

短歌

一年は年の始めが大切だ良い年有と祈りなるかな
 寒空に素足乍らで診察す医師の立ち振り尊たかしと見ると
 今年こそ明るいニュース多かれと寒き神社に祈り
 中飯屋辰子

庭の梅ほころび初はつめし寒なかに目白の群は枝を飛び交ふ
 卒寿をば生きある姉の微笑みと目の輝きに励はげましたし
 口に云へぬ親しさこめて幼な子は我をゆびさすそのいとおしさ
 後先に家出てめぐる海の辺に亡き夫の星と思ふ輝き
 西の窓に置く白菊のひとときを艶増し見ゆる夕光さす
 山茶花に群るる目白を追い払ひひよどり一羽占めて蜜吸ふ
 寝ね居りぬ現まを離れ野を歩む母の言葉をたじろぎて聞く
 理由もなく寂しさ迫る朧おぼろ月背の曲がりし我に重き荷

町田キクエ
 松元 睦子
 吉田 映子
 岩下 ち江
 岩下 房代
 榎平 頼子
 米尾 和子
 中山タマエ